



海外旅行先で安全・安心に薬を買うために

海外旅行中に体調を崩し、薬を購入しなければいけなくなった時、躊躇することはないだろうか？
たとえば、日本人の自分にこの薬は合うだろうか？と迷ったり、偽薬という言葉がよぎったり……。そんな戸惑いについて千駄ヶ谷インターナショナルクリニックの篠塚規院長に話を伺いました。

●偽薬の心配は不要

時々、海外での偽薬を心配する人がいますが、旅行者にとってはほとんど心配のないことです。薬局で処方箋なしで購入できる胃腸薬や解熱剤、風邪薬のような市販薬に偽の薬はないと言っているでしょう。

というのも、こうした薬はもともと安価なため、偽薬を作ったところで製造コストの方が上回ってしまいます。金銭目的で偽薬を作るとすれば、全く用をなさないのである。

●バイアグラと抗生物質には少し注意

偽薬があるとすれば、バイアグラと抗生物質です。中国、インド、ミャンマーは比較的にこうした薬が出回っていますし、アジアに限らずアフリカでも広がっているのが現状です。パッケージデザインも、錠剤も見た目はまったく同じでも、中身が違います。インターネットで出回っているバイアグラも、半分以上は偽物です。しかしこうした製品は、一般の旅行者が海外で購入することはほとんどないと思うの

で、あえて注意を促すほどのことでもありません。

もちろん抗生物質は、症状次第で必要とするケースがありますが、基本的には医師の診察を仰いだ後に、処方箋を書いてもらわなければ薬は購入できず、さらに日本と違いシンガポールにせよ中国にせよ他の国では、院内の薬局で薬を出してもらいます。日本のように院外の処方箋薬局で、薬を出してもらうシステムではないため、医師の診察を受けた後の購入には、偽薬の心配がないと言えます。

一昔前なら、医師の処方箋がなくても薬局で抗生物質を購入できる国があり、日本人旅行者が買って帰る話を耳にする例もありましたが、最近では聞かなくなりました。

また抗マラリア薬の偽薬が騒がれたことが一時ありましたが、警察によつて摘発されすぐに収束しました。

●飲みなれない海外の薬は強すぎる？

海外の薬は強い、と心配する人もいるようですが、日本人が効果の薄い市販薬に馴らされているために、海外は強い薬を売っていると感じてしまいがちです。言い換えるなら、日本とは違い海外では、効く薬を売っているというだけのこと。

なぜかと言えば、アメリカは医療費が高いため風邪程度では、病院へは行きません。だから薬局で、効果の高い医薬品を販売しています。先進国で

は薬剤師が医師的な役割を果たしており、症状を話せば適切な薬を紹介してくれます。

●市販薬は購入する場所選びが肝心

市販薬そのものに疑心暗鬼になる必要はありませんが、ベトナムやミャンマーなど途上国で薬を購入する場合は、日本でいうイオンモールのような場所にある、地元で名の通ったチェーン店の薬局や、空港内のファーマシーを使いましょう。町中の薬局は管理の悪い店が多く、日の当たるところに商品置いて、劣化していることがあるためです。

●日本から持ち込めない＆日本に持ち込んではいけない薬

大麻、覚せい剤以外では、向精神薬は海外から持ち帰ることのできない薬です。

また他国への入国の際、個人使用でも二カ月を超えると、アメリカなど先進国では現地で没収されます。オーストラリア入国の際は全て申告が必要です。

常時服用している薬がある人は、長期で滞在する場合や途中で薬を紛失したケースを想定して、英文の薬手帳や診断書の携帯を勧めます。病気の経過が分からない現地の医師に、持病の内容や服用している薬剤を正しく伝え、適切な薬を処方してもらうためです。

挑戦の数だけ、 保険がある。

To Be a Good Company



東京海上日動

